



8/13~8/20
[木] [木]

支え合いの絆を熊本へ

令和8年熊本地震 被災地支援

8月13日から20日まで、熊本地震の被災地支援のため、教育委員会事務局社会教育係の一ノ瀬宥樹さんを熊本県氷川町へ派遣しました。一ノ瀬さんは、氷川町公民館で避難者への支援物資の配布や避難所の清掃、避難者の生活支援などに従事しました。

一ノ瀬さんは、被災地での活動を振り返り「被災された方が、思っていたよりも明るく振る舞われていることが印象に残りました。一方で、非常に疲れた表情をされている方もいらっしゃいました。避難所での生活は、普段とは異なる環境での暮らしを強いられます。現地で活動する中で、身体的な疲れだけでなく、環境の変化や先の見えない不安による心労も大きいのだと感じました。今回の活動を通して、被災された方々に寄り添いながら支援することの大切さを改めて感じました。」と水川町長へ報告しました。



左) 一ノ瀬宥樹さん 右) 水川町長

8/25
[火]

夢を实らせた、はじめての収穫

佐賀県産ワイン醸造へ第一歩 ブドウ初収穫

佐賀県初となるワイン造りに挑戦している高平登志子さんが、定植から3年を経て、待望の初収穫を迎えました。この取り組みは、中山間地域の耕作放棄地を活用し、新たな特産品を生み出そうと町内でワイン用ブドウの栽培を続けてきました。約27アールの畑では6品種、約350本のブドウが育てられ、天候や鳥獣被害などの困難を乗り越えながら大切に手入れされてきました。今回収穫されたのは、白ワイン用の白ブドウ80キロ、赤ワイン用の黒ブドウ120キロの計200キロ。収穫されたブドウは長崎県のワイナリーへ運ばれ、醸造される予定です。

将来的に町内での醸造所設立も計画されており、町の新たな特産品として、地域の魅力発信や活性化につながることを期待されています。



▲ブドウ初収穫

8/26~8/27
[水] [木]

体験から見つける、私の未来

大町ひじり学園8年生職場体験学習

大町ひじり学園の8年生が、町内外の20事業所で職場体験を行いました。役場では2人の生徒が広報おまちの取材や編集業務を体験しました。以下の記事は、広報業務を体験した生徒たちが作成したものです。

大町ひじり学園8年生(37人)が8月26日、27日に職場体験を行いました。

大町温泉ひじりの湯では、2人の生徒が、厨房で調理や品出しを体験しました。学んだことについて尋ねると、「言葉遣いやお客様の迷惑にならないように気を付けました。また、しっかり最後までお客様の話を聞くことが大切だと学びました」と話しました。

他の生徒もさまざまな事業所で貴重な体験をしていました。

